

学校教育目標	「やりぬく〜かしく、やさしく、たくましく」 お互いを大切に、主体的に学び続ける児童の育成	経営理念	めざす学校像「わかる できる かわる たいしい」学校 教職員が一体となり、家庭・地域と共に、これからの社会を力強く生き抜くために必要な資質・能力 「知識・技能、課題発見・解決能力、自己調整力、協働性」の育成を目指した主体的な学びを促す教育活動を推進する。
--------	---	------	---

評価計画					自己評価				学校運営協議会による評価		改善方針			
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							9月	月						
確かな学力の向上	1	自ら学びを求める児童の育成	○「個別最適な学び」と協働的な学びの一体的な推進	・児童の自己調整力と学力の向上を目指した学習指導の工夫 ・目的のある家庭学習(帯タイム「ぐんぐんタイム」との連携、「やる気」勉強)の実施	◇教師の授業力評価【肯定的評価3.2以上(4段階評価)】※研究授業で教師の相互評価	3.2	3.18			2	7月に実施した校内授業研究の授業分析シートの結果の平均値は3.178ポイントであり、目標値をやや下回る結果となった。 今年度は、教員が個人研究テーマを設定し、児童が動機付けを高め、学力形成につながる効果的な指導の在り方についての研究を進めている。8月には県立教育センターの濱松指導主事による研修も実施し、自律した学び手の育成に向けた指導について考えることができた。各教科・領域等の見方・考え方の視点をもって後期の校内授業研究も実施し、今後の指導改善に生かしていきたい。		・授業参観では、児童同士がやりとりする時間が確保されていたり児童の思いを大切にしながら授業を展開している様子が見られた。 ・ICTを効果的に活用しつ、思考の可視化を意識した板書や児童が書く活動を大切にしている。	・今後も実践交流を行いながら、ICTの効果的な活用方法について検討していく。 ・校内授業研究だけでなく、オープンクラスルームで、互いの授業を見合う場を設定し、各々が自己の授業改善に生かす。
					◇学力の実態調査NRT・標準学力調査の正答率40%未満の児童の割合【10%以下】※学力検査結果	10%以下	国11.8%算13.5%		2	2〜5年生児童のNRTの結果と6年生児童の全国学力・学習状況調査の結果から、国語科と算数科の正答率が40%未満の児童の割合を調査した。その結果、国語科では11.79%、算数科では13.54%の児童が正答率が40%未満であった。 前期では目標値を達成することができなかった。後期に向けて、前期の学習内容だけでなく、前学年の学習内容も必要に応じて復習する機会を設ける必要があると考えられる。デジタルドリルを活用した反復練習や、やる気勉強の工夫など、より家庭学習が充実するための手立てを考えたい必要がある。	・学力調査の分析をより詳細に行うことで、今後の取組の方向性を明確にしていきたい。 ・必要に応じて家庭と連携していく。	・学力調査の結果をより詳細に多様な視点から分析共有し、確実に学力の定着を図る。 ・家庭学習の内容について再検討するとともに、必要に応じて家庭と連携しながら個に応じた手立てを講じる。		
					◇自己の学び方に対する意識調査 ・目標をもって学習に取り組んでいる(1・2年) ・目標達成に向け、自己の学び方を工夫している(3〜6年) 【肯定的評価80%以上】※児童アンケート	80%	1・2年93.2% 3〜6年87.4%		3	児童アンケートの結果では、低学年・高学年ともに目標値を上回ることができた。発達段階を考慮し、低学年児童に対しては、自分の目標に対して粘り強く取り組むことができていたかを質問した。高学年児童に対しては、自己の学び方を振り返り、より効果的な学び方の獲得について質問をした。各教科・領域等で有効な学び方や、よりよいやる気勉強の取り組み方の紹介など、自ら学び続けることができるようにするために、後期もよりよい学び方を実践できる場を設定していく。	・効果的な学習方法を示し、児童が選択できるようにしていく。 ・何のためにしているのか、明確にし、児童と共有する。	・日々の授業で、児童の多様な学び方を支援できるように、より具体的な学習の手立てを講じ、つまずきに応じた手立てを講じる。 ・児童と単元の学習計画や学びのゴールを共有し、学習意欲を高め、主体的に学ぶ姿を実現していく。		
豊かな心の育成	2	「みなが力(みんななかよくがんばる力)」を磨く学校生活	○お互いを大切にできる児童の育成	・当事者意識をもたせた生活目標の設定 ・あいさつ名人チェックポイントの積極的活用	◇生活目標に関するアンケート【肯定的評価:80%以上】※児童アンケート	80%	90.8%		4	振り返りの結果、あいさつ(90.8%)と生活目標(94%)いずれの項目においても目標であった80%を大きく上回ることができた。各月の生活目標の指導やあいさつ運動を各学級で工夫して進めることで、お互いを大切にできる児童の育成につなげることができていたと評価される。しかし、「生活目標に連なって取り組んでいる」の項目は他の項目に比べ数値が低いため、より主体的に生活をより良くしようとする態度を育てていく必要があると考えられる。	・児童が安心できるクラス経営を充実させ、児童同士の絆を深め、互いを大切に支え合う学級集団作りを行う。 ・学校だよりや学年だより等で学校の取組について積極的に発信する。	・あいさつ運動等学級の取組を充実させ、児童同士の絆を深め、互いを大切に支え合う学級集団作りを行う。 ・学校だよりや学年だより等で学校の取組について積極的に発信する。		
			○児童相互・教師との信頼関係の構築	・児童の自己肯定感を高め、役割を果たす機会の設定(係活動や当番活動の充実と振り返り)	◇児童アンケートの「自己決定」「自己存在感」についての意識調査【肯定的評価80%以上】※児童アンケート	80%	91.5%		4	いずれの項目においても目標を達成することはできており、自己肯定感の高さがうかがえる。しかしながら、「自分は人の役に立っている」という項目については、他の項目に比べ数値が低い傾向がみられた。他者の存在を意識して様々な活動を行うことができても、その行動が人の役に立っているかという実感を持つまでにはつなげていないことが考えられる。お互いを評価する場をさらに設けていきたい。	・児童が落ち着いて生活している様子が見られる。 ・言葉がけなどから、先生方が児童を大切にしていることが分かる。	・「よいところ見つけ」や「自分賞」の取組を継続し、児童の自己有用感や自己肯定感を高める。		
たくましい体の育成	3	運動好きな児童の育成	○児童の体力の向上を図る	・「みながんばる」の取組の工夫	◇領域別体育技能の実態調査【6月実施の新体力テストとの比較で、記録が伸びた児童の率80%以上】※20mシャトルラン「みながんばる」	80%			2	6月の新体力テストで1回目の記録を聞いた。全国平均と比べると、5年生男子の結果は43.53回で平均の46.91回を下回った。女子の結果は、43.17回で平均の36.81回を上回った。2回目は、12月に計測する予定である。それまでに、体育の時間の始めに2分間走、夏休み中に室内で行える休つきり運動、みながんばるの継続など、持久力を高める運動を継続していき、6月時点と比べ、達成項目を少しでも増やしていきたい。	・基礎体力をしっかりと高め、楽しく取組を行う。 ・今後の体力の向上に期待する。	・体育の2分間走やみながんばるの継続の取組を継続し、体力向上を図る。		
			○運動や外遊びが好きな児童の育成	・「みながトレーニング」の取組の工夫 ・月に1回の学級遊びの機会の設定	◇運動への意欲【肯定的評価:90%以上】※児童アンケート	90%	93.9%		4	運動が好きな児童は93.9%である。休憩時間に運動が好きな児童は、外遊びを楽しむ一方、苦手な児童は、教室で静かに過ごしているという実態がある。外遊びを通して、体を動かす楽しさを味わわせたい。そのため、体育委員会を中心に企画した「全校遊び」や、縄跳び週間を実施し、全校児童が外に出て、体を動かす時間を確保していきたい。また、月に1回の学級遊びで、みんなで遊ぶ楽しさを味わわせたい。	・外遊びの活性化に向けて、遊び方を教え合うのもよい。	・楽しく運動に取り組める場づくりを意図的にし、児童の外遊びの啓発を引き続き行う。		
儒学類校づくり	4	安心・安全な学校づくり	○「学校が楽しい」と感じる教育の創造	・児童にとって有意義な学校行事や総合的な学習の時間の取組	◇学年の取組に対する児童の満足度【肯定的評価90%以上】※児童アンケート	90%	97.2%		4	「学校行事は楽しい」96.9%、「生活・総合の勉強は楽しい」97.4%、児童アンケートの結果から、学校の取組に概ね満足していることが窺える。「学校は楽しい」90.1%、「学校にいる」と満足する90.1%、「授業が楽しい」89.0%、昨年度と同率または上回っている。学校が安全安心に過ごせる場であり、児童にとって有意義な取組となるよう、目的を明確にし、全教職員で共有し、取組をすすめる。	・アンケートの項目を工夫し、児童の姿をしっかり見取ってほしい。地域行事と関連させてつなげていきたい。 ・人材バスケ学校のニーズに応えられるようにしていきたい。	・児童のより具体的な姿が見られるようにアンケート項目を吟味する。 ・地域や保護者との連携を密にし、学習活動を充実させる。		
				・教職員が働きがいを感じる職場づくり	◇子供と向き合う時間確保ができる等、働きがいを感じる【肯定的評価90%以上】※教師アンケート	90%	96.9%		4	教職員アンケート「子どもと向き合う時間の確保93.8%昨年度比-8.2」「仕事へのやりがい100%」働きがいを感じる業務を行っている教職員が多い。一方、他の教職員と相談している100%「教材研究の時間が持ていない68.8%」「授業準備の時間が持ていない81.3%」児童アンケート「先生と話をしてほしい84.5%高学年79.2%」さらなる会議時間及び内容の精選等を行い、放課後の業務時間の確保に努める。	・業務時間の確保は、どのようになっているのか詳しく知りたい。 ・来年度に向けて学校評価項目の検討をしていく。重点的に取り組む項目に焦点化してよい。	・現在取り組んでいる業務改善の取組を継続し、働きがいを感じる職場環境づくりに努める。 ・今年度の取組の成果と課題を分析・整理し、来年度の取組に向けて検討を行う。		

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示

■自己評価

4...目標を上回って達成  
2...目標をやや下回って達成

3...目標どおりに達成  
1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)

A...とても適切である  
B...概ね適切である  
C...あまり適切でない  
D...全く適切でない  
(N...判定できない)